

花見風俗（雨聲會席上卷絹に）

泉鏡花

著

大正五年四月

紺地に茶の豎縞の一枚小袖、緋の紋縮緬の長襦
袷、共に對丈にして袖長し。極薄いクリームに枝垂
れ櫻を縫漬しの半襟、青磁色に銀で縫分けの手綱染
の帯、白木の兩割の駒下駄。襟脚雪の如く白く、一
緋鹿子の肌襦袷の襟微かに見ゆ。キリ、とした仇な
顔、細面。

右正に危く見染め申候所、下町の娘花見の風俗。